

(令和7年度)  
自己評価書

園番号	園名
719	伏見こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の教育・保育目標を職員間で共通理解する。</li> <li>各年齢の発達の特性や保育・教育時間の連続性を考慮し、全体的な計画を作成する。</li> <li>指導計画の反省・評価を踏まえ、次年度の全体的な計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の会議で園教育・保育目標を確認し、重点課題を共有する。</li> <li>長時間保育の課題を洗い出し、保育環境の改善を行い、教育時間と長時間の連携について会議で話し合い進めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート結果にて園が目指す子ども像を育むための関わりをしているという回答が約100%を占めた。</li> <li>長時間保育の利用実態に応じ、環境の再構成ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入園児保護者会や年度当初の懇談会等で園の教育・保育目標を具体的に示し、理解を図っていくことが必要である。</li> </ul>
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回の園内公開保育を実施し、職員カンファレンスを通して、保育者としての力量を高める。</li> <li>個々の記録やでいあシート作成により、保育を振り返り、評価を行い保育案を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年毎の公開保育では、討議のねらいを事前に参加者に周知し実施した。参加者は討議の視点があることでテーマに沿った話し合いを進め、「子どもの豊かな心」が明らかになってきた。また、カンファレンスによって見取った子どもの姿をでいあシートを使用して保護者に伝えた。</li> <li>担任だけでなくフリー担当者でもでいあシートを作成し、自らの保育を振り返る機会をもつことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートに研究主題に関する項目を設定し、理解したという回答が80パーセント以上であった。</li> <li>担任は毎月1回以上、フリーは年1回以上はでいあシートを作成し、保育を振り返ることで、次月の保育計画作成に活かせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修受講回数については担当によって差があるため、職員配置の工夫を行いながら計画的に進めていく必要がある。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもとの話し合いの時間を確保し、子どもが主体的に行事を作っていけるようにする。</li> <li>職員間で行事の目的、子どもに経験してほしいことを話し合い、行事方法を柔軟に計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの声を聴くため、子どもとの話し合いの時間を継続してつくってきた。そのことで、子どもが話し合いの場で自分の意見を周囲にわかるように伝えるようになってきた。また、友達の意見を聞き、一緒に考える等し、自分たちで作っていく活動の面白さを感じるようになった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等に関しても子どものたちの声を聴き進めたことで、既存の方法ではなく新たな方法を見出し、計画、実行することができた。保護者アンケートではそのことに対して肯定的な意見もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの思いを聴き、行事等を子どもと一緒に実現できるようにしてきた。また、その経過の重要性に対し保護者理解を図ってきたが、十分でなかった点もあるため、何を育てたいのか、等、啓発方法を今後も工夫していく必要がある。</li> </ul>
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間の共通理解を図り、プライベートゾーンに配慮した環境作りを行う。</li> <li>チェックリストを利用し、自身の保育を見直す機会をもち、子どもの人権を尊重した保育を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で保育環境をチェックし、配慮が必要な箇所を洗い出し、必要なパーテーションパネルを作成した。</li> <li>各保育者がチェックリストを使用することで自身の保育や子どもへの関わり方を振り返る機会をもち、子どもの人権を尊重した保育をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに話し、パーテーションを作成したことで、子どもたちにも意識付けができ、自ら気を付けようとするようになってきた。</li> <li>チェックリストを使用することで、各視点から自分の行動を見直すことができた。</li> <li>保護者アンケートで9割以上の方が「人権を尊重する保育を行っている」と回答した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、全職員で配慮が必要な箇所を共有し、環境作りを行っていく。</li> <li>チェックリストを使用して振り返ったことを職員間で共有できる仕組み作りをし、常に意識し行動できるようにしていく必要がある。</li> </ul>
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を職員間で共有し、連携しながら指導を行う。</li> <li>長期欠席児等、実態把握を行い、家庭支援を行う。</li> <li>伏見地区少年指導協議会等、関係団体との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携、保護者からの情報は関係職員で共有し、子どもに適切な指導を行うことができた。</li> <li>欠席状況、家庭支援の方法等、紙面に記載し、支援方法を職員間で共有し、考えられるようにしたことで、家庭支援につなげることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児の情報を関係職員で共有することで子どもとの信頼関係を築くことができた。</li> <li>保護者アンケート結果より気軽に相談しやすいという回答が100%であり、記述の中にも声をかけやすいという意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、日々の子どもの様子を保護者と共有できるように声かけを行うとともに就労等の理由から、頻繁に声をかけることができない保護者に対しても定期的に個々の保護者と話す機会をもつようにする。</li> </ul>
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>対処方針や指導計画が明確である</li> <li>日頃より実態把握・早期発見に努めている</li> <li>各学級の状況を園組織として共有できている</li> <li>保護者や地域と連携できている</li> <li>組織的に迅速に対応する体制が整備されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中の子どもの表情や言葉等から、友達同士の関係性を把握し、職員間で共有することで、多角的な視点で指導を行うことができた。</li> <li>送迎時に保護者と話す機会を持ち、子どもの変化等を気軽に話してもらうことができた。</li> </ul>	C		
			B				
			C				
			B				
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年間での情報共有、支援内容の共有を行い、個々の子どもに応じた支援を行う。</li> <li>園巡回相談等、関係機関と連携し、子どもの育ちを把握し、支援の方法について見直しを行う。</li> <li>個人懇談会等を実施し、保護者との関係性の構築を図る。</li> <li>小学校、小学校教育へ情報提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会議では、園児の情報を共有するだけでなく、具体的な支援の方法を考えるようにした。また、担任だけでなく、フリー保育者も担当を決め個別の指導計画を作成したことで、多角的に子どもを捉え、支援方法を考えていくことにつながった。</li> <li>就学に関して、個人懇談等を利用して保護者に情報を提供し、子どもの最適な学びの場について保護者が前向きに検討できるようにした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画作成を通して、園児の支援の仕方を共有し進めることができた。</li> <li>4、5歳児支援学級入級希望の保護者に対し、必要な情報を提供し、小学校へつなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パート職員等は記録を書く時間が持たないことから、記録方法を考案し、子どもの特性理解に努めていく必要がある。</li> </ul>
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
		③ 指導方法の工夫改善					
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和7年度)  
自己評価書

園番号	園名
719	伏見こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園教育ビジョン等を示し、園目標の確認を全職員で行う。</li> <li>・職員との面談を定期的に行い、職員の心身の健康維持や職務に対する意欲向上につなげる。</li> <li>・学校評議員会（年3回）、保護者アンケートにより園運営に関して意見を集約し、課題を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副園長との人事考課面談以外に職員との面談を実施し、職員の気持ち、園の実態把握に努め、改善点については、すぐに対応した。</li> <li>・年3回の学校評議員会を実施し、園の取組状況を知らせ、意見をいただいた。1月実施の保護者アンケートでは、アンケート結果を職員間で共有し、年間計画作成時等に考慮した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員との対話と実態把握を行い、園の課題を洗い出し、仕組作りを開発職員と考案実行したことで、個々の職員が能力を発揮しながら保育することにつながることができた。</li> <li>・年3回の学校評議員会、保護者アンケート（行事毎も含め）を実施し意見徴収できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員体制から職員間の対話不足が生じる時間帯がある。対話時期、対話時間等の検討を行い、システム化していく必要がある。</li> <li>・保護者アンケートを参観後も実施し、保護者の思いを聴く機会をもつ。</li> </ul>
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修受講のための時間の確保、職員体制作りを行う</li> <li>・エピソード（でいあシート）研修を月1回実施し、主題に向け、研究を進める。</li> <li>・職員毎のステージに応じた研修参加を行い、スキルアップを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に年間の研修計画を作成し、各職員から希望を募った。月の計画に研修参加者を入れておくことで、職員体制作りを行うことができた。</li> <li>・研究主任を中心にエピソード研修を毎月実施した。実施前にその日のカンファレンスのねらいを明確にもつことで円滑に研究を進めることができた。</li> <li>・ミドルリーダー研修、中堅研修等を通して中堅保育者が自らの役割を意識し、園運営に携わることができるようになった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正規職員・8H会計年度任用職員の園内・園外研修参加が年1回以上できた。</li> <li>・でいあシートにより「子どもの心の動き」を保護者に伝えたことで、保護者アンケート結果において「子どもの心の様子がわかる・子どもの育ちや学びがわかる」という回答が約8割以上だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修により明らかになったことを保護者と共有できるように共有方法について職員間で考えていく必要がある。</li> </ul>
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
③ 園外の研修への積極的参加							
④ 園外研修内容の共有							
⑤ 研修成果の普及							
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体と連携し、協働で避難訓練を実施し、避難時の対応について見直しを行う。</li> <li>・プール遊び、園外保育等、活動時の注意点を職員間で共有し、事故防止を図る。</li> <li>・園門の施錠を徹底、保護者証の着用を促進し、安全な環境作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏見地区自主防犯・防災協議会との協働し防災訓練を実施、避難時の方法を見直した。</li> <li>・活動前に安全管理マニュアルを職員で確認し、注意点を共通理解することで、各職員が意識し対応することができた。</li> <li>・園門の施錠時間、保護者証着用等を保護者に周知し、園児の飛び出し防止、不審者侵入を防いだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート結果にて園が子どもが安全に過ごせるよう災害時の対応を適切に行っているという回答が約100%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事故には至らなかったが事故件数は令和6年度より減少しなかった。子どもの実態把握を行い、保育者の位置や視野を広げ、事故防止に努めていく必要がある。</li> </ul>	
	② 防災計画の立案						
	③ 危機管理体制の整備						
	④ 安全指導の工夫改善						
	⑤ 家庭との連携						
	⑥ 関係機関との連携						
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーマニュアルを職員間で確認し、安全な給食提供を行う。</li> <li>・感染症等の必要な情報を保護者に提供し、園児の感染予防に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギー研修を全職員が受講し、アレルギーに対する知識、対応を再確認する機会を持った。また、実際に実行できているか、管理職による確認を行った。</li> <li>・感染症流行前に園児の欠席状況、感染症予防についてを保護者に啓発した。また、欠席者の急増時には園医と連絡し対応を相談した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルを周知し、用品を整理しておいたことで不測の事態に対して対応することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用品の定期的なチェックを実施できるように事務分掌に位置づけていく。</li> </ul>	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備						
	③ 健康観察、健康管理能力の育成						
	④ 関係機関との連携						
	⑤ 昼食（給食等）の衛生管理						
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・でいあシートを作成し、ホームページ等で保護者、地域、小学校に発信する。</li> <li>・園児が小学校へ行く機会を作り、幼小連携を図る。</li> <li>・地域の方との交流会を計画し、園の保育を公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・でいあシートを毎月ホームページに掲載するとともに保護者にコドモンで配信をし、見ていただく機会をつくった。</li> <li>・地域、小学校へは紙面で持参し、意見をいただく機会をもち、園児の様子を伝えた。</li> <li>・年3回の民生児童委員との交流を通して園児の姿を見ていただき、園児の成長や保育者の姿勢等を理解していただいた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート結果より「園は地域と連携して保育している」が9割以上を占めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との連携については、小学校へ行く機会をもち交流の機会を昨年度より増やしたが、職員同士で子どもの姿を伝え合うことができなかった。次年度は職員の小学校見学の回数を増やし、交流の機会を探っていきたい。</li> </ul>	
	② 園(保育)公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ P T A・保護者会の活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を毎月実施し、安全な環境をつくる。</li> <li>・美化清掃に努め、多角的な視点で環境整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の安全点検を各担当が交代で行い、注意点は朝礼で全職員に伝達した。</li> <li>・天候の変化による施設管理等も含め、対応し環境整備を行うことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の点検、日々の清掃により、大規模事故の発生を防ぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・遊具等が原因ではない事故が数件あったため、年間事故発生原因を共有し、環境作りに活かす。</li> </ul>	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書を整理し、適切な書類の保管を行う。</li> <li>・個人情報の取り扱いについて職員間で確認し、管理を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保管期間を確認し、廃棄期限を明示することで、廃棄漏れなく適切に保管できるようにした。</li> <li>・保護者から個人情報の同意書を提出してもらい、ホームページ掲載時には複数人で確認し公開した。個人情報の取り扱いについては、LGWAN内の作成、鍵付きロッカー保管を徹底した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ研修受講や保管場所を整理したことにより、職員の個人情報保護、管理に対する意識が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室内、各個人デスクも含め、整理し、部会者の入室を制限できるように表示を設置する必要がある。</li> </ul>	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						